



林業経営の危機

レポート vol.1
緑の日本であり続けるために
赤堀楠雄の 林材レポート

1 2 3

Like 0 Post

植林が放棄された禿山が25,000haも

林業とは木を植えて育て、大きく育った木を伐採して収入を得る産業です。伐採した後は、苗木を植え、あるいは自然に発芽した木を育てて新しい森をつくっていきます。

ところが最近、多くの森が伐採された後に木が植えられず、禿山のままで放置されています。林野庁の調査によると、伐採されてから3年以上経っても木が植えられていない森が全国に25,000haもあるといわれます。



シカに樹皮を剥ぎ取られたため、枯れてしまったヒノキの苗木

なぜ、このようなことが起きているのでしょうか。それは国産の木材（国産材）の売れ行きが悪く、木を売った利益では植林して森をつくる費用がまかなえなくなっているためです。

40～50年かけて育てた木を伐っても赤字？

伐採収入では植林の費用がまかなえないという事態が生じていることについて、実際の収支例を見てみましょう。下の図は宮崎県内でスギ林1haを伐採した際の木材販売収入と再造林の経費、差し引きの収支がどうなったのかの例です。

Table showing financial breakdown for logging and reforestation in Miyazaki Prefecture, including wood sales revenue, planting costs, and subsidies.

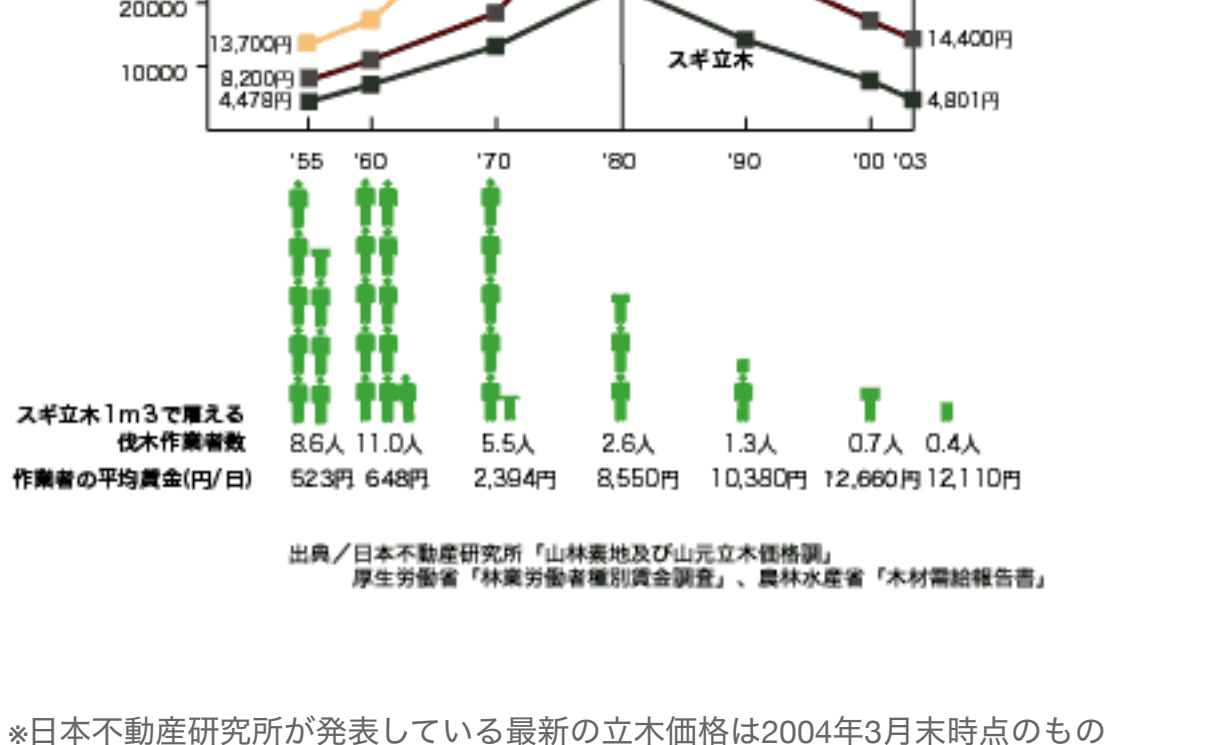
この例では、丸太の販売額から諸経費を差し引いた収入が70万円で、伐採跡地に植林する経費が83万9,000円ですから、差し引き13万9,000円の赤字となってしまいます。



立ち木の売上げでは植林・育林費用まで捻出できないために再造林されない山が増えていく

50年前と同じ立木価格。でも人件費は20倍。これじゃあ、やっていけない・・・

林業の採算が悪化している最大の原因は国産材価格の低迷です。立ち木（立木）ゆりぼく）や丸太の価格がどのように推移しているのかを関連する指標と比較しながら見てみましょう。



出典/日本不動産研究所「国産材価格の動向と日本林業の現状」、厚生労働省「林業労働力調査報告書」、農林水産省「木材市場情報報告書」

2003年3月末時点のスギの立木価格は全国平均で4,801円（1m3当たり）と、過去最高値を記録した1980年の1/5程度にまで落ち込んでいるのがお分かりいただけます。

ところが、木を伐採したり、搬出したりする作業にかかる人件費はこの半世紀で大幅に上昇しました。伐採搬出作業に携わる労働者の平均賃金（日当）をみると、55年は523円でしたが、2003年は12,110円と実に20倍以上です。

丸太1本の価格は1,000円くらい

さて、同じグラフでスギ丸太の2003年の価格は、10.5cm角や12cm角の柱を1本製材できる中丸太が14,300円/m3となっています。これも立木価格と同様に大幅に値下がりしていて、過去最高値（1980年）の3分の1以下にまで落ち込んでしまいました。

木材の価格は一般に1m3単位で表されますが、丸太や柱が1本当たりだとどれくらいの価格になるのかを、2003年のデータで見おきましょう。丸太の場合、1m3とは長さ4m、末口直径16cmの丸太は10本分に当たります。

なお、このデータでは丸太1本と柱1本の価格がほぼ同じになっていました。丸太は柱の原料ですから、ちょっとおかしいですね。これはこの表に掲載されている価格があくまでも全国平均であるため、特に丸太の場合、品質が多少良いものの価格や、比較的高値で取引引きされる産地の価格も混ざりがちなためです。



一方、柱の価格も全国平均であるのは同じですが、丸太に比べて広い範囲で流通するため、地域による価格差はそれほど生じません。ただ、ここで取り上げているのは丸太も柱も、「並材」と呼ばれる普通の品質のものです。

それではなぜこれほど国産材が安くなってしまったのか。あるいは、それほど値下がりにしてもからかわらず、国産材の需要が低迷しているのはなぜなのか。次ページで考えてみましょう。

Like 0 Post

1 2 3

関連する記事はこちら

- 国産材時代到来か？ 最新 緑を絶やさないために
山への思いを受け継ぐ
その木のふささを知る
無垢の木を使って森づくりを支える

Table listing regional woodworkers across various Japanese prefectures and cities.



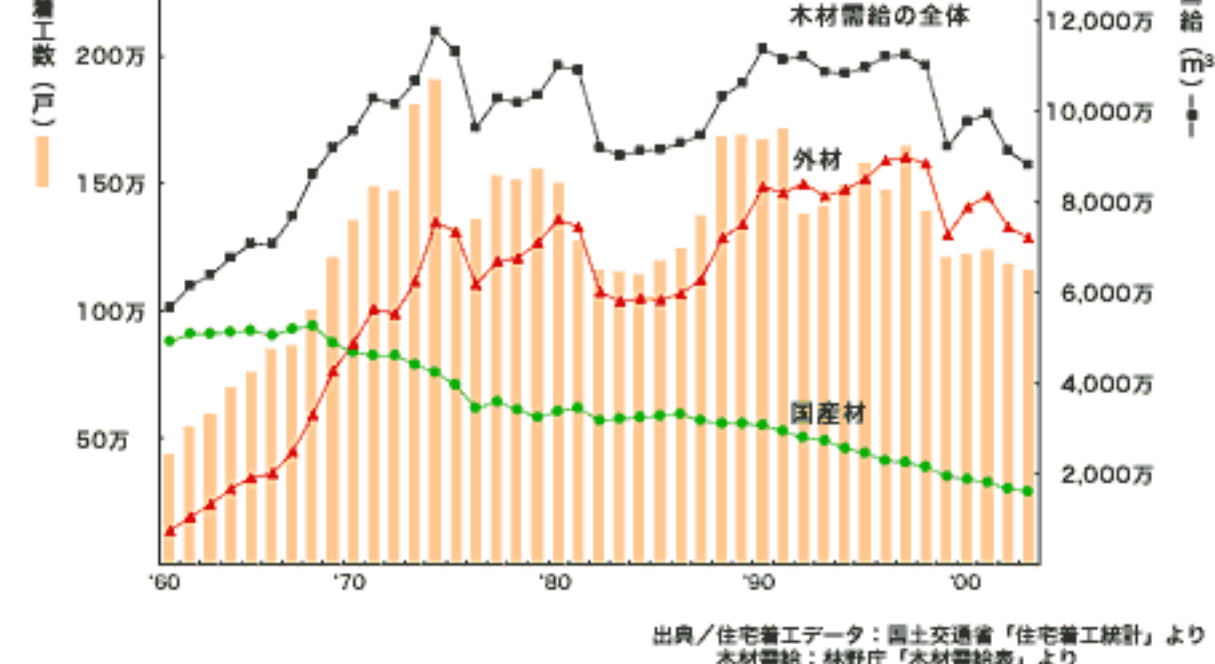
なぜ国産材が使われないのか？



Like 0 ポスト

## 「安い外材」は円高がもたらした

国産材のシェアは1965年には71.4%と7割を超えていましたが、わずか4年後の69年には49.0%と初めて50%を割り込むまでに急落しました。以後は一貫してシェア低下が続き、ここ数年は18%程度と2割にも満たない水準で低迷しています。この間、木材の需給がどのように推移しているかをみると、木材全体の需要量と外材の供給量は、木の一番の用途である住宅の着工戸数とほぼ比例した動きになっているのに対し、国産材の供給量は、それらとは無縁であるかのように減少し続けています。このことは住宅の材料として、国産材が主役ではなくなってしまったことを示しています。



国産材が売れなくなったのは、価格が安く、まとまった量で入荷する外材との競合で打ち負かされ、市場を奪われたためです。特に価格面では、円高の進行が大きく影響しました。現在の為替レートは1ドル=100円ほど（2005年2月中旬時点）ですが、以前は1ドル=360円という固定相場制だったわけですから、輸入コストは1/3以下に低下したことになります。この間、仮に海外の産地で人件費が上がったり、物価が上昇したりしていたとしても、円高がクッションとなって上昇したコストを吸収するため、日本への輸出価格はあまり影響を受けずに済みます。

一方、国産材は人件費や物価が上昇すれば、その影響をまともに受けます。ところが、競合相手の外材が安い価格で市場に出回るわけですから、上昇したコストを価格に上乗せすることができません。その分、利益率は低下し、採算が苦しくなります。そうしているうちにも円高がさらに進行し、競争力がいっそう増した外材にじわじわとシェアを奪われてしまったのです。

## プレカットの普及で無垢材のニーズが低下

ただ、最近の動向をみると、従来のように「安い外材との競争に負け」といった紋切り型の表現だけでは、国産材の低迷を説明することができなくなっています。むしろ、価格面では値下がりがすぎた国産材の方が安く取り引きされる傾向さえあります。それなのに国産材が使われないのは、住宅の工法が大きく変化し、無垢の国産材に対するニーズが従来以上に低下しているためです。



上/無垢材の柱。木そのままの性質をもっている。下/集成材にプレカット加工を施した柱。木を原料とした工業製品である。

最近の木造住宅はプレカット材を使って建てられるケースが非常に増えてきました。プレカット材とは、継ぎ手や仕口といった接合部があらかじめ機械で自動的に加工された木材です。以前は、こうした加工は大工がノミや鋸を使って行っていました。しかし、ここ10年ほどでプレカット材のシェアが急上昇し、現在、都市部では木造住宅の7割以上がプレカット材で建てられているとさえ言われます。プレカット材は機械が加工するわけですから、個々の木材の癖や性質を読むということはありません。ところが、自然素材である無垢の木は1本ごとに性質が異なります。熟練した大工ならそうした性質を読み、しかもその性質を生かすように加工するわけですが、プレカットはそういった応用動作が利きませんから、無垢の木は敬遠されてしまいます。

その代わりに台頭したのが主にヨーロッパ産の木材で製造された集成材です。乾燥した薄い板を接着剤で貼り合わせた集成材は、寸法安定性が非常に高く、プレカット加工にはうってつけの材料といえます。そのため、当初は無垢の木に比べて高価であったにもかかわらず、プレカットの普及と歩調を合わせて一気に需要が高まりました。

2000年の春に住宅品質確保促進法（品確法）が施行されたことも集成材の普及に拍車をかけました。品確法の性能保証制度では、新築住宅の引渡しから10年間は住宅の構造部に不具合が生じた場合、施工業者が責任を負わなければなりません。そのため、プレカットを採用していた業者の多くが、機械任せで加工でき、誰が扱っても一定の施工水準が期待できる集成材に飛びついたので。このほか、屋根の野地板や壁の下地材などでも無垢の木に代わって合板などのパネル材が使われるようになったことも国産材の需要を後退させました。

## 無垢の木の「素材力」が生かされてこそ「木の家」

このようにプレカットの普及や品確法の施行に伴って集成材が必要を伸ばし、そのあおりで無垢の木が使われなくなっているというのは、家づくりにおいて効率性が追い求められ、材料を選ぶ際に工業的な品質安定性がかりが重視されてきた結果だといえます。ただ、鉄やコンクリートといった工業製品と同じような品質ばかりを木にも求めるのであれば、住宅を木で建てる意味が薄れてしまいます。実際、ハウスメーカーなどが建てている木造住宅は、多くの場合、柱が壁の中に隠れている大壁工法が採用され、外装材もサイディングなどの工業製品が主流ですから、見ただけでは鉄筋コンクリート造や鉄骨造、プレハブなどの住宅とほとんど区別がつかえません。

しかし、本来の「木の家」とはそんなものではないはずです。木には温かみや質感といった人の感性に訴える魅力があり、断熱性や調湿性に優れるといった機能面の良さもあります。そういった木そのものの「素材力」が十分に生かされた家——、それこそが「木の家」と呼ばれるものであるべきです。それは無垢の木がふんだんに使われた「木の家らしい住まい」であるはずです。

ところが効率性が優先される住宅づくりにおいては、そうした「素材力」がほとんど顧みられず、「木の家」としての特徴が見出せない、のっぺりとした家ばかりが建てられることになってしまいます。さまざまな世論調査によると、消費者の8割以上が「木造住宅に住みたい」と希望していることが明らかになっています。しかし、現在の状況はそうした希望にこたえているとは言えません。



「木の素材力」が生きている無垢材の家。落ち着き、安らぎ、ぬくもりも自然が感じられる空間は、住む家族にとって最高の住環境。（写真提供/長谷川敬アトリエ）

## 消費者軽視、環境より経済重視が国産材の逆風に

無垢の木の「素材力」と、集成材が持つ工業製品のような品質安定性。それぞれはいったい誰に利益をもたらすのかを考えてみてください。無垢の木の素材力は、住空間においてさまざまなメリットを生み出します。木の温かみ、調湿作用、シックハウスにならないこと等々。これらは言うまでもなく住まい手である皆さんの利益です。また、それだけでなく、自然素材そのものである無垢の木には、長期間利用された後に最終的に廃棄されるときがきても、環境にはなんら負荷を与えないという自然全体に対するメリットもあるのです。

それに対して、集成材の品質安定性は、手間をかけなくても一定レベルの住宅を建てられるという点で、どちらかといえば施工業者により多くの利益をもたらしていると言わなければなりません。環境保全の観点からは、化学物質である接着剤が使われていることがマイナスになります。そう考えてみると、実は消費者軽視の風潮や環境よりも経済を重視する発想が無垢の木、ひいては国産材に対する逆風になっているという構図が見えてきます。

Like 0 ポスト



関連する記事はこちら



国産材時代来か？ 最新 緑を絶やさないために 山への思いを受け継ぐ その木のふるさとを知る 無垢の木を使って森づくりを支える

### 木の家イベントカレンダー

#### 最近の特集記事

- 2018年3月27日 伝統建築に携わるすべての職人に光を
- 2018年2月7日 「伝統建築工師の技：木造建築物を受け継ぐための伝統技術」ユネスコ無形文化遺産候補選定のおしらせ
- 2018年1月2日 新春特別企画 2017年のベストショット
- 2017年12月14日 第17期木の家ネット総会：倉敷大会・民家改修と奥家-
- 2017年10月14日 気候風土適応住宅のチラシができました！
- 2017年9月4日 家のお風呂 こうやって作る、こうやって保つ
- 2017年8月8日 家にお風呂が入るまで
- 2017年6月30日 気候風土適応住宅のスズメ
- 2017年6月3日 掛川総会 3
- 2017年5月31日 掛川総会 2

#### 人気のある記事

- 伊勢神宮遷宮・御社始祭りに300年の大木を伐る！ 16件のビュー
- 冬の温熱調査合宿報告 15件のビュー
- 日本人の暮らしと木 13件のビュー
- 大工たちによる「家戻し」の記録 12件のビュー
- 設計士・丹羽明人さん(丹羽明人アトリエ)：納得できる答を探して 11件のビュー
- 第三回これ木造フォーラム「伝統構法はこれからどこへ向かうのか？」の報告 11件のビュー
- 「職人がつくる木の家」づくりを未来につなげるアンケート 11件のビュー
- 吉川 保の熊本山川尻町 震災日誌 11件のビュー
- 込み谷角ノミ 復讐！松井鉄工所訪問記 11件のビュー
- サツキとメイと私の家：愛・地球博レポート 10件のビュー

#### この記事のタグ

日本の山河を守りたい 環境と共生する家づくり 赤堀楠雄の林材レポート

#### 同じタグがついた別の記事

- 2009年4月30日 山里の暮らしがなくなる？
- 2007年5月25日 日本人の暮らしと木
- 2007年11月25日 木の家ネット第七期総会・徳島大会レポート
- 2010年10月9日 森林・林業・地域再生を目指して
- 2008年8月25日 林材ジャーナリスト・赤堀楠雄さん：無理のない自然な存在、それが木の家

北海道・東北	関東（東京以外）	甲信越・北陸	東海	関西	中国・四国	九州
北海道 青森県 宮城県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県	栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 神奈川県 東京都	新潟県 富山県 石川県 福井県 山梨県 長野県	岐阜県 静岡県 愛知県 三重県	滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県	鳥取県 岡山県 広島県 山口県 徳島県 香川県 愛媛県 高知県	福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県



# レポート vol.1 緑の日本であり続けるために 赤堀楠雄の 林材レポート

無垢の木の家づくりが山を救う

Like 0 | X | ポスト

## 大工の技が無垢の木を生かす

最近森林や林業に目を向け、それらが置かれた状況を改善するために、国産材を積極的に使っていくという取り組みが各地で増えてきました。私たち木の家ネットが求めている「山、つくり手、建て主がお互いの顔が見える関係」をつくらうという運動もそのひとつです。こうした活動の多くは、無垢の国産材の活用というテーマを掲げています。集成材と異なり、無垢の木はひとつひとつの木に個性があるので、それを見極めることが必要です。最近高温の蒸気や高周波を使って乾燥させ、工業製品のように仕立てられた無垢の木も増えていますが、スギやヒノキ、カラマツなどで製造された集成材もかなり出回るようになってきました。しかし、そうした手法に頼らず、自然に近い形の木を使おうとすれば、それぞれの個性と正面から向き合わなければなりません。

その際に頼りになるのが、長年、無垢の木と向き合ってきた大工の職人技です。例えば、木目からその木を使うのに適した方角を読んだり、あるいは反りのある木を上からの荷重を受け止める形で使ったりと、木の個性を生かすために大工はさまざまな技を駆使して家を建てていきます。その意味では、無垢の国産材を使おうという取り組みの多くが、プレカットではなく、大工の手刻みによる木の加工を中心に据えているのは当然のことといえるでしょう。

## 無垢の木と無農薬野菜は似ている

無垢の木との付き合い方は、無農薬野菜との接し方に似ています。無農薬野菜は形がいびつで不ぞろいだったり、虫がついていたり、見てくれはけつていいとはいえません。育てるのにも手間がかかりますし、輸送コストも形そろった野菜よりかかります。そのために値段が多少高くなってしまっています。それでも無農薬野菜に人気があるのは、たくさんの方が安全でおいしい野菜を求めているからです。「安全でおいしい」というのは自然の産物である野菜が本来持ち合わせている「素材力」です。見てくれの悪さや値段がちよっと高いことなどを我慢すれば、自然がもたらしてくれた野菜の「素材力」を私たちは味わうことができるのです。

無垢の木も同じです。接着剤で固めた集成材や合板と違い、無垢の木はひとつひとつ性質が違いますし、多少の割れが入ったり、床板や羽目板に隙間ができたりますこともあるかもしれません。しかし、それらは無垢の木が自然素材のものであるためにおきこみです。それを寛容に受け止めることができれば、無垢の木でしか味わえない質感や温かみ、それらによる快適性という「素材力」を満喫することができます。それに表面が少しくらくら割れても強度が落ちることはありませんし、隙間ができるというのも木が呼吸している証です。夏になって湿気が多くなれば、それを吸って太ったために隙間がピタッと合わさることもあります。ひとつひとつの癖や個性は大工の技が長所に変えてくれます。外見も鉄やコンクリートがびびるとみずびらしくなるのと違って、無垢の木は時を経るに従って表情に深みが増して魅力が出てきます。「木って本来、そういうものなんだ」。そんな風に思っ無垢の木と付き合い合ってみてはいかがでしょうか？

## 森づくりを持続させる収益環境をつくらう

無農薬野菜の生産は、その良さをどれだけ高くても買おうとする消費者と、彼らの求めにこたえようと熱心に取り組む農家の存在によって支えられています。それでは木の場合はどうでしょうか。残念ながら、仮に無垢の国産材が見直されるようになって、木を売った利益では植林費がまかなえないという今の状況が続けば、その分、伐りっぱなしの禿山が増えていくという皮肉な結果にもなりかねません。その意味では、木を育てて良質な木材を供給するという営みが経済的にも成り立つにはどうすればいいのかを「山」、「つくり手」、「住まい手」が知恵を出し合って考える必要があります。

最近、家づくりのグループの中には、単に山から木を買っただけでなく、その山で森づくりを再スタートさせることも含めて林業経営を成り立たせるためには、どのくらいの価格が適正なのかを議論するところも出てきました。（木の家ネットのメンバーも関わっている「大津の森の木で家を建てよう！プロジェクト」の取り組みをご覧ください：<http://www.doblog.com/weblog/myblog/33445/922682>）あるいは家づくりにかかる費用の配分を見直したり、1本の木を無駄なく使ったりすることで、木にかかるコストをうまく吸収することもできるかもしれません。そういった取り組みがこれからはますます必要になるはずです。

一方で、山の方にも収益構造を改善するための努力は求められます。日本の山は急傾斜で、どうしても経費が余計にかかってしまいます。ですが、例えば林道を適切に整備したり、零細な所有者の山を経営権だけでも集積して効率性を高めたりといったことを通じ、利益を生みやすくしていくことは可能です。

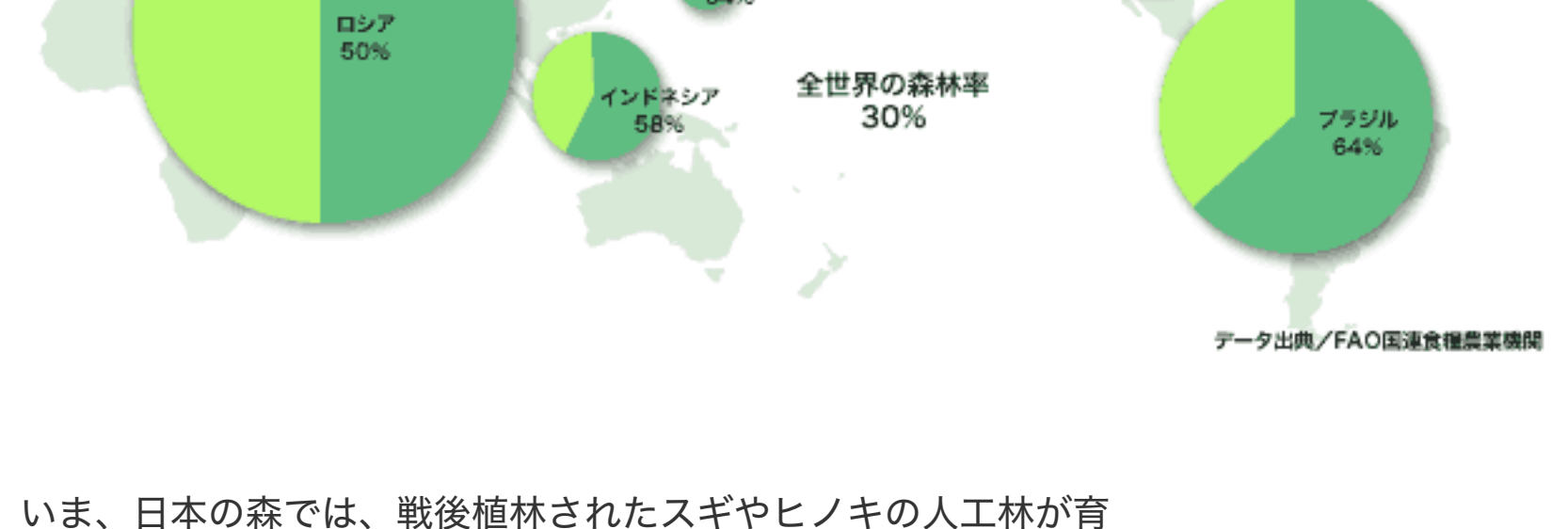
林業や無垢の木による家づくりをめぐる状況は年々厳しさを増しています。これを好転させようにも、効率性が重視され、経済のグローバル化が進行する中では容易なことではありません。しかし、森が再生可能な形で維持され、自然のままの木が生かされた家をつくり続けていけるようにするためには、たとえ小さな一歩でも前に踏み出すことが必要です。それぞれができること、協力し合えることをひとつひとつ実行していくこと。今まさにそれが求められているのです。

一方で、山の方にも収益構造を改善するための努力は求められます。日本の山は急傾斜で、どうしても経費が余計にかかってしまいます。ですが、例えば林道を適切に整備したり、零細な所有者の山を経営権だけでも集積して効率性を高めたりといったことを通じ、利益を生みやすくしていくことは可能です。

林業や無垢の木による家づくりをめぐる状況は年々厳しさを増しています。これを好転させようにも、効率性が重視され、経済のグローバル化が進行する中では容易なことではありません。しかし、森が再生可能な形で維持され、自然のままの木が生かされた家をつくり続けていけるようにするためには、たとえ小さな一歩でも前に踏み出すことが必要です。それぞれができること、協力し合えることをひとつひとつ実行していくこと。今まさにそれが求められているのです。

## その木のふるさとを思い浮かべる

日本は国土の64%が森に覆われている緑豊かな国です。世界でもこれほど緑に恵まれている国は少なく、北米はアメリカが25%、カナダが27%に過ぎませんし、世界最大の国土面積を有するロシアでも50%にとどまっています。密林に覆われているイメージが強い東南アジアでもインドネシアが58%、マレーシアが59%と日本を下回っています。森林率が日本に匹敵する国は、北欧のスウェーデン（66%）やフィンランド（72%）、アマゾンの大森林があるブラジル（64%）などわずかしかりません。



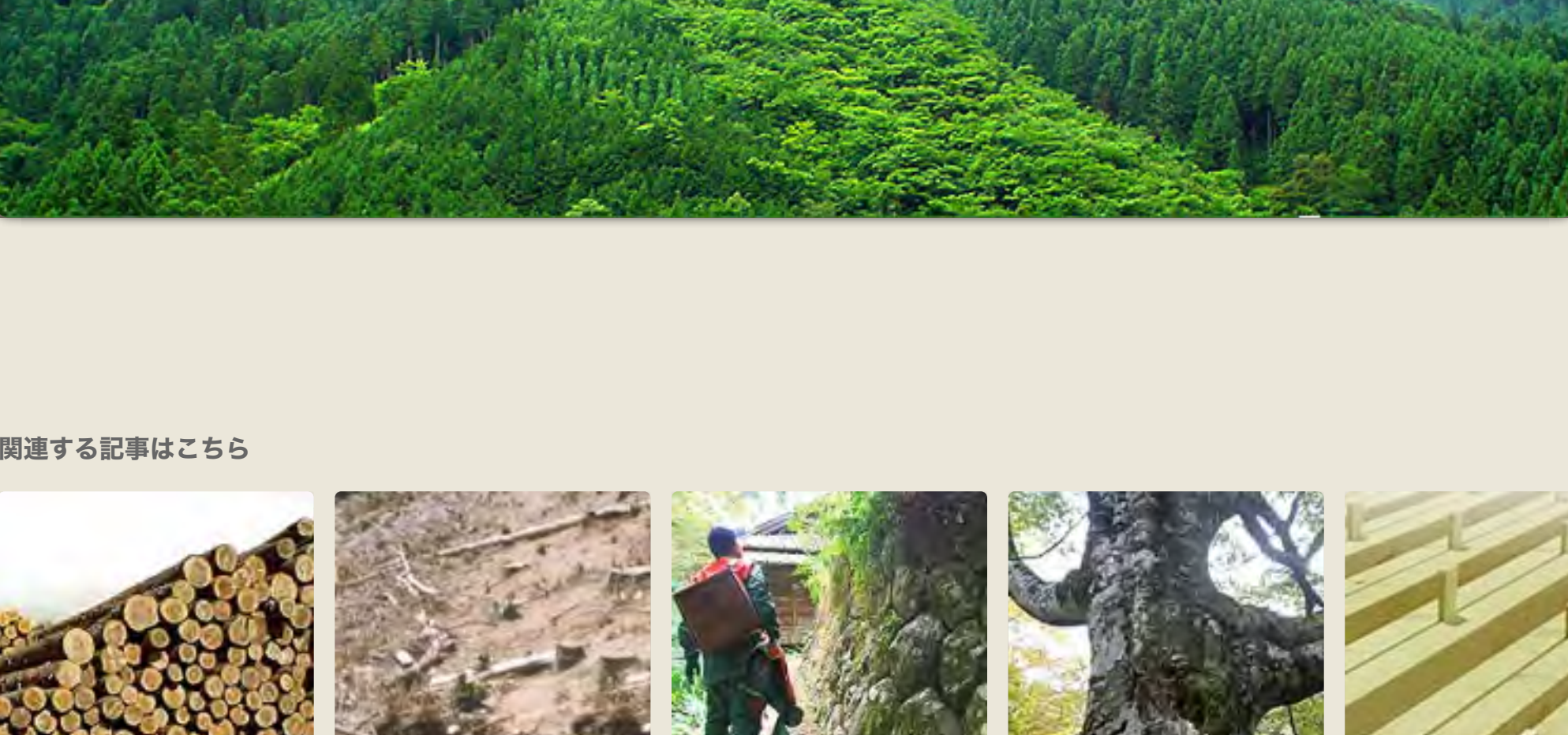
いま、日本の森では、戦後植林されたスギやヒノキの人工林が育ち、木材の潜在的な供給力がかなり高まってきています。木材資源の量は毎年大量に増加していて、年間の木材需要約9000万m3のほとんどを資源を減らさずにまかなうことが計算上は可能です。もちろん、森の中には貴重な原生林や成長途上の若い木もありますから、増加する分をすべて生産するわけにはいきませんが、資源としての成熟度が増してきていることは確かなことです。

しかし、それだけ豊かな緑に恵まれ、資源が充実してきていても、日本ではいまだに外国から大量の木材が輸入されつづけているのです。過去には南洋産木材の主要産地であったフィリピンの森林を丸裸とっていったくらいにまで伐りつくして非難を浴び、いまでも各地の熱帯林やシベリアのタイガ（針葉樹林）の破壊に手を貸しているとして後ろ指をさされる。そして国内の森に目を向けると、間伐の遅れや植林放棄などの問題が深刻化しているのです。

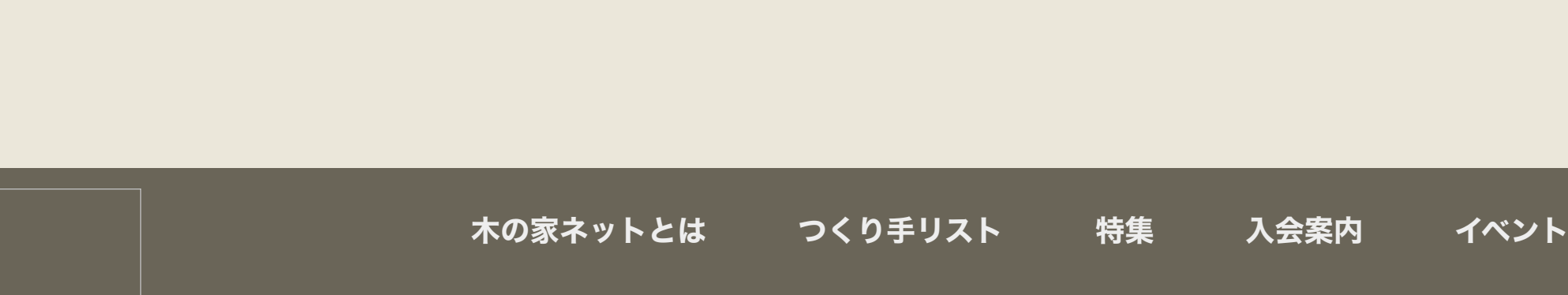
このような状況を改め、国内でも国外でも森と木と人の関係を健全なものにするためには、やはり林業の営みが継続され、国産の無垢の木が適切に利用されることが必要です。そのために、みなさんが木の家を建てたり、木製の家具や木工品などを買ったりする場合には、その木がどこからきたのか、その木が生まれたところでは、今も森がちゃんと育ち続けているのかを常に思い浮かべてみてください。自らの消費行動いかんによっては、無意識のうちに海外の森林破壊に手を貸すことになるかもしれないし、逆に意識して日本の森を維持することに協力することもできるのです。そんなことを心において、国産の無垢の木を選んでいただければと思います。

Like 0 | X | ポスト

1 2 3



関連する記事はこちら



国産材時代到来か？ 最新 緑を絶やさなために 山への思いを受け継ぐ その木のふるさとを知る 無垢の木を使って森づくりを支える

### 木のイベントカレンダー

最近の特集記事

- 2016年12月23日 掛川総会
- 2016年9月2日 込み栓角ノミ復活！松井鉄工所訪問記
- 2016年6月21日 熊本震災レポート 2
- 2016年6月9日 大工たちによる「家戻し」の記録
- 2016年5月21日 熊本震災調査レポート
- 2016年4月28日 古川 保の熊本市川尻町 震災日誌
- 2016年3月31日 2/16 衆議院第二議員会館 調査報告会レポート
- 2016年1月27日 地域型住宅の省エネルギーを探る～2016.1.17 京都フォーラム報告
- 2016年1月14日 第15期 木の家ネット総会 高知県会～会員発表編～
- 2015年11月13日 工務店・小田貴之さん「家戻し」を語る～2016.1.17 京都フォーラム報告

### 人気のある記事

- 伊勢神宮運営・御袖始祭り：300年の大木を伐る！ 16件のビュー
- 冬の温熱調査会報告 15件のビュー
- 日本人の暮らしと木 13件のビュー
- 大工たちによる「家戻し」の記録 12件のビュー
- 設計士・丹羽明人さん(内羽明人アトリエ)：納得できる家を築いて 11件のビュー
- 第三回これ木遣フォーラム「伝統構法はこれからの家づくりへの報告」 11件のビュー
- 「職人がつくる木の家」づくりを未来につなげるアンケート 11件のビュー
- 古川 保の熊本市川尻町 震災日誌 11件のビュー
- 込み栓角ノミ復活！松井鉄工所訪問記 11件のビュー
- サツキとメイと私の家・愛・地球博レポート 10件のビュー

この記事のタグ  
日本の山を守りたい  
環境と共生する家づくり  
赤堀楠雄の林材レポート

### 同じタグがついた別の記事

- 2016年10月9日 森林・林業・地域再生を目指して
- 2005年1月25日 林業・和田善行さん(ITSウッド協同組合)：山崩れに提案する家づくり
- 2011年7月2日 山への思いを受け継ぐ
- 2007年11月25日 木の家ネット第七期総会・徳島大会レポート
- 2006年9月25日 「林業をやる」ってどんなこと？

事務局  
〒711-0306  
岡山県倉敷市見島下の町5丁目7-3  
見島倉庫内  
mail: jimukyaku@kino-ie.net  
tel: 086-486-5464

木の家ネットとは つくり手リスト 特集 入会案内 イベントカレンダー 問合せ

地域別つくり手リスト

北海道・東北	関東(東京以外)	甲信越・北陸	東海	関西	中国・四国	九州
北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県	栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 神奈川県 東京都	新潟県 富山県 石川県 福井県 山梨県 長野県	岐阜県 静岡県 愛知県 三重県	滋賀県 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県	鳥取県 岡山県 広島県 山口県 徳島県 香川県 高知県	福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 鹿児島 高知県